

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	13-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol-attributable and alcohol-preventable mortality in Denmark: an analysis of which intake levels contribute most to alcohol's harmful and beneficial. デンマークにおけるアルコール起因死亡と予防死亡：どの飲酒量が有害・予防的かに関する分析</p>		
執筆者		
Eliassen M, Becker U, Grønbaek M, Juel K, Tolstrup JS.		
掲載誌		
Eur J Epidemiol. 2014 Jan;29(1):15-26. doi: 10.1007/s10654-013-9855-2.		
キーワード		PMID
飲酒、死亡、アルコール寄与割合、理にかなったガイドライン		24129661
要 旨		
目的：		
2010年のデンマークにおいて、アルコール起因性死亡およびアルコールが予防したと考えられる死亡の定量的評価を行い、集団レベルでアルコール消費分布が様々に変化した場合のアルコール関連疾患死亡の変化を推定する。		
方法：		
アルコール起因性死亡・予防死亡の各割合を次の情報より推定した：メタ解析報告による相対危険度、デンマーク全国健康調査 2010（参加者 14,458 人）およびそれを修正した成人一人当たりの飲酒量。疾病特異的な死亡はデンマーク死亡原因登録を用いた。		
結果：		
アルコール起因の総死亡は女性で 1,373 例（全死亡の 5.0%）、男性で 2,522 例（同 9.5%）であった。一方、アルコールが予防したと思われる死亡数は女性 765 例(2.8 %)、男性 583 例 (2.2 %)であった。アルコール起因性死亡のうち女性の 73%、男性の 81%は大量飲酒者（週当たりの飲酒量が女性/男性で 14/21 ドリンクより多い、と定義）に起こっていた。アルコール摂取の 50%の減少は、アルコールが部分的に起因している死亡の 46%（1,406 例）と、アルコールが予防する死亡の 3%（37 例）の減少に関係していた。低リスク飲酒量上限（女性/男性で一週間 7/14 ドリンク未満）および、高リスク飲酒量上限（一週間 14/21 ドリンク未満）に全ての人が従った場合に低減できるアルコール起因性死亡はそれぞれ 2,380 例、1,977 例と推定された。		
結論：		
2010年のデンマークにおいてアルコール起因性死亡は女性の全死亡の 5.0%、男性の全死亡の 9.5%と推定された。大量飲酒者の割合は女性 16%、男性 26%であり、アルコール起因性死亡の多く（女性 71%、男性 81%）は大量飲酒者であった。		